



## N034 どの子にも分かりやすい授業の工夫

### — 授業に多様な学習指導の形式があると… —

前号では、「特別支援教育の視点は、どの子にも分かりやすい授業を提供する上での基本となる。」ということをお話しました。

**そこで今回は、「どの子にも分かりやすい授業の工夫」ということについて“多様な学習指導の形式”という視点から考えてみたいと思います。**

#### 分かりやすいのはどっち？

**Q 目的地までの道順を教えてもらう時、どちらの方法が分かりやすいですか？**

- ① 「この道をまっすぐ行って2つ先の信号を右に曲がって…」というように、進む道順に従って言語で教示を受ける。
- ② 地図で現在地と目的地を示してもらう。

「①の方が分かりやすい」という人もいれば、「②の方が分かりやすい」という人もいます。また、「①②どちらの方法も同じくらいの分かりやすさだ」という人もいます。

このように、**人それぞれに“分かりやすい方法”には違いがある**のです。

したがって、**子どもに合わない指導の形式を常に用いていると、学習効果が上がらないだけでなく、その課題に対する苦手意識が強くなり、学習意欲の低下を招くことにもなりかねません。**

さらには、意欲を喪失し二次的な障がいとして、「授業に参加せず好きな本ばかり読んで」「教室から出て行く」等の不適切な行動に発展する場合があります。



指導にあたっては、課題の難易度のみを考慮するのではなく、子どもにとって分かりやすい方法を工夫することが必要です。子どもが複数であれば、**単一の方法で、常にどの子にも十分な理解が図られる**という事はあり得ないのです。



**授業に多様な学習指導の形式があると、子どもたち一人ひとりが、自分に合った学習方法を見つけることができ、どの子にも分かりやすい授業を展開することに繋がります。**

例：漢字の指導 → 数多く練習するという方法もありますが…

- ・書き順を（横、縦等）言語化しながら書く。
- ・構成している部分を明確に示す。（日+青=晴）
- ・漢字の形をイメージさせる。（象形文字）
- ・漢字のもつ意味を説明する。 等

